

レバーがついていても、案外使わねえ人が多いんだが、これは、もってえねえ話だ。

画面効果を中心に、じっくり構えて撮影する時にゃあ、ぜひ使いてえ機能だな。

レンズの被写界深度目盛りを使う方法と、この絞り込みボタン・レバーを併用すると、被写界深度の目安をつける分にはあ、理想的といえるんじゃないだろうかねえ」。

熊さん 「一度も使ったことのねえ機能でやすが、あつしみてえなポケ好きの男にゃあ、もってこいだな」。

御隠居 「じゃ、最後に、三番目の被写界深度表を読みとる方法を説明するでしょう。

この被写界深度表の最大の利点は、正確な被写界深度を知ることができる点にある。

で、この被写界深度表の左端にゃあ殆どの場合、撮影距離がメートル単位で書かれている。

そんで、表の上側にはあ、絞り値がf幾つで記されている。

読みとるには、撮影距離と絞り値が交わるところを見りゃあいい。

例えば50ミリの場合、3メートルでf11のところを見ると、2・15と5・01と書いてある。

こんなふうには、撮影距離と絞り値が交差したところを見りゃあいいんだ。それだけさ。

……熊さん、おめエがレンズの被写界深度目盛りを見て、『中央の線の一方は2メートルちよいで、反対側は5メートルちよい位』と言ってたのを思い出してくれ。だいたい当たっているだろう。

普通に撮影する分にはあ、いちいち被写界深度表を見るより、レンズの被写界深度目盛りで凡その見当をつけて撮ったほうが早いし、便利だといえるね。

まあ、この表は、一般撮影用というより、接写や複写、それに厳密な被写界深度を要求する研究用の記録写真、または医学用写真向けってえところだろうな……」。

熊さん 「こりゃ、あつしにゃ関係なさそうだな。それでも、必要になることがあるんでしようかねえ」。

御隠居 「将来接写や複写に興味を持つかもしれねえし、一般撮影でも何時必要になるかわからねえからな」。

熊さん 「なるほどねえ。で、接写や複写ってえ、そんなに面白いんですかい？」。

御隠居 「人には好き好きってえもんがあるから、人にもよるな。一度凝り出したらやめられねえけどな。

そういえば、ちよいとこの被写界深度表を見てみな。これは55ミリのマクロレンズ（接写用レンズ）の奴だけけどな、撮影距離が0・25メートルの場合、f32まで絞っても、たった0・247から0・254メートルしか被写界深度がねえだろう。つまり1センチねえわけだ。こんな時、この表が役にたつ。で、ついでに、こっちの被写界深度表も見てみな。これは200ミリの表なんだけれどな、例えば、6メートルのf11のところには、5・71と6・32メートルとあるだろう。つまり、被写界深度は約0・6メートルだ。これは、人の姿の線を活かす撮影にゃあ、ほどほどの被写界深度だな。要するに、おめエさん向きだ。